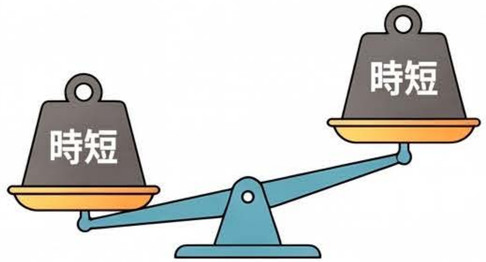
旭化成に学ぶ知財×生成AI活用：効率化の先にある「対話と提案」への再投資

旭化成の知財インテリジェンス室は、経営・事業の意思決定に直結するIPランドスケープを追求してきた。生成AIの導入によって創出された時間を、事業部との「対話・検証・提案」に再投資することで、知財活動の提供供価値そのものを高めている。



知財×生成AI活用の核心：価値観の転換



AIが収集・整理を担い　人は問いの設定と提案に集中



浮いた時間を事業部との対話や仮説検証に再投資し、意思決定を動かす。

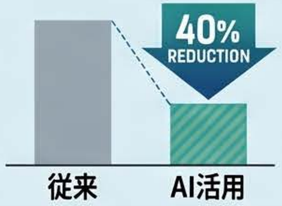
調査・分析作業をAIで効率化し、人は事業文脈での解釈や実行伴走に注力する。



AIの効果測定を「時短」から「対話・提案の採用率」へ転換

生成AI活用で新用途候補の選別時間を約40%削減

特許等の文献データから6,000以上の用途候補を自動抽出・絞り込みを実施。



成功を支える組織体制と運用のポイント



知財機能を「経営企画担当役員」の直下に配置。経営に近いポジションに置くことで、分析結果を迅速に意思決定へ届ける。

全社AI基盤と特化型ツールの明確な二層使い分け



社内LLM基盤
機密データは社内LLM基盤



特化型ツール
公開特許分析は専門ツールと明確に使い分ける。

Gemini Notebook